

安心生活創造事業について

質問(小西久美子議員)今後の安心生活創造事業の取り組み方策について伺います。

答弁(市長)家族の支援を得られないひとり暮らしの高齢者等の生活課題が全国に顕在化する中で、地域における新たな共助の確立を構築するために、地域に即した安心生活創造事業を行っております。

この事業は、平成二十三年度までの三か年事業であり、平成二十二年に黒羽見守り助け合い隊、今



現在、使用されていない旧川西中学校

年二月に佐久山おもいやり隊を発足し、ひとり暮らしの高齢者等の個別訪問を開始し、個別ニーズに合った見守りと介護支援を行っております。また、来年度も実施主体である地区社会福祉協議会を一か所追加する計画です。なお、本事業は平成二十三年度で国庫補助期間は終了いたしますが、市内の残り九か所の地区社会福祉協議会についても順次地域を指定し、平成二十四年度以降は、年間三地区程度の指定を行い、

将来的には市内全地区で実施する計画です。少子高齢化が進展する中で本事業の必要性は高く、社会福祉協議会の小地域ネットワーク活動との調整、事業費のローコスト化を図り、市単独事業として実施したいと考えております。また、災害時の要援護者及び在宅難病者の支援態勢などの整合性を図り、相互の情報共有化により、平時時から緊急時までの見守り態勢が構築できることとなります。なお、本事業の展開についてはマンパワーの活用、充実は避けて通れませんので、社会福祉協議会とさらに協議を進めたいと考えております。



佐久山おもいやり隊の発足式

中学校の空き校舎利活用について

質問(鈴木徳雄議員)黒羽地区の四中学校統合により廃校となった中学校校舎の利活用について伺います。

答弁(市長)空き校舎利活用につきましては、昨年十一月に廃校校舎活用庁内検討委員会を設置し、下部組織としてワーキンググループを組織いたしました。その中で、各学校の地域の方々の意見をお聞きし、検討、研究してはどうかとの意見が出されたところであり、

二月十四日、十五日の両日、四地区の意見を聞く座談会を自治会長、自治公民館長、民生委員及び地元選出市議会議員の出席のもと開催し、それぞれ多くの意見が出されたところであります。主な意見としては、「統合小学校として活用する。高齢者対策に利用してはどうか。また災害時の避難場所として利用し、校庭は緊急時へのヘリポートとして利用しては」などであり、まだ一回の座談会開催でありまし

て、このメンバーのほかPTA関係者も加わっていたが、今後も引き続き会を重ね、十分なご意見をお聞きしたいと考えております。全国的に廃校利活用につきましては、各自自治体で頭を悩めている問題でもありますので、議員の皆様方には知恵をおかしいただければと思っております。また、大田原市立小学校適正配置検討委員会の意見も参考に、ことし八月までには方向性を出してまいりたいと考えております。